



喜多の埜

厄年の御祈祷

厄年とは一生の内で特定の年に災難がふりかかることが多いとされた年齢のことです。古来よりこの年にあたられる方は、その一年の健康無事を祈るために、身を慎み、神社などで厄除の御祈祷を受ける習わしがあります。

また、厄は役につながるとされ、社会における役割のまわってくる年ともいわれ、その役割を担えるほどの人物となるため、自戒の意味で神前においてお被いを受ける方も少なくありません。

当社では二月中はご予約頂ければ、本殿にて厄除の御祈願承っております。お電話などで、「厄除の御祈祷をお願いしたいのです」と申して頂きましたらご対応させていただきます。本年の厄年は左記の表の通りです。

男性			女性		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
昭和 61年生 24歳	昭和 60年生 25歳	昭和 59年生 26歳	平成 4年生 18歳	平成 3年生 19歳	平成 2年生 20歳
昭和 44年生 41歳	昭和 43年生 42歳(大厄)	昭和 42年生 43歳	昭和 53年生 32歳	昭和 52年生 33歳(大厄)	昭和 51年生 34歳
昭和 25年生 60歳	昭和 24年生 61歳	昭和 23年生 62歳	昭和 49年生 36歳	昭和 48年生 37歳	昭和 47年生 38歳
			昭和 25年生 60歳	昭和 24年生 61歳	昭和 23年生 62歳

年齢は数え年です

初年

みなさまご存じの京都の伏見稲荷大社。全国のお稲荷さんの総本社です。この伏見の地にお稲荷さんの神さまが降臨された日が二月初めの午の日であったので、それ以降、初午の日をお稲荷さんの縁日として全国の稲荷社では神事が行われます。また会社の屋上や、自宅などでお祀りされているお稲荷さんの祭礼もこの日に行うのが慣わしで、梅田界限でも社業の隆盛を祈る会社では当神社の神職が参って神事が執り行なわれています。

二月の旬

神事の際などに神さまにお供えする食べ物等の事を神饌(しんせん)といい、米・酒・塩・水などのお供え物が基本の神饌となります。本来、順番や置き方など色々作法があります。古来より日々の感謝を込めて「旬のもの」をお供えする素直な心根こそが、神さまが一番お喜びになられるといわれています。この二月に旬を迎えるものとして、

【野菜】

水菜、菜の花、大根、ふきのとうなど。

【果物】

いちご、いよかん、オレンジ、キウイなど。

【魚介類】

サワラ、ワカサギ、ホタルイカなど。

【その他】

初旬は寒さ最も厳しき季節となりますが、立春以降は少しずつ気温も上がり、中旬には百花に先駆けて梅の花も咲きはじめます。

神社携帯サイトのQRコード



ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応

編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

